

農林水産省からの報告（8月21日時点）



←九州農政局Xで発信中

○被災した農地、用排水施設等の復旧に向けた人的・技術的支援

- ・ 発災直後から、全国からポンプ、水位計などの災害対策機材とともに応援を得て、延べ約2,100人・日を派遣。県と連携しつつ、ため池の点検・調査、農業用水確保等を実施。
- ・ MAFF-SATの市町村担当チームが個別に巡回し、農地・用排水施設等の復旧に向けた制度・手続の説明や査定に向けた作業を支援。

○農業用水の確保

(1)八代平野地区

- ・ 被災していた不知火幹線水路等について、応急復旧工事を実施し、8月8日より、農地約4,400haへの送水を再開。併せて、トマト農家等のために給水車の設置（8/20暫定的に新しい箇所でも実施）、80台以上のポンプを活用した排水路から用水路への水の補給、沢水の用水路への引き入れ等を実施。
- ・ 現在、区域を分けて隔日配水により用水供給中。
- ・ 追加対策工事により、8月16日より送水量の増量に取り組中。
- ・ 今後定植に伴い用水需要の増加が見込まれるイチゴ・トマト等への用水供給に全力で取り組む。

(2)氷川大堰掛かり

- ・ 氷川大堰直下の幹線用水路の被災後、国と県が用意したポンプ約100台を投入。また、イチゴ農家等のために大堰の取水口に2台ポンプを設置。8月7日より、通水に厳しい制約があるながらも段階的に農地約1,300haへの配水を開始。
- ・ 農研機構（農村工学研究部門）及びMAFF-SATにより幹線用水路の応急復旧作業を支援。
- ・ 8月15日より、幹線用水路及び支線用水路で充水試験を開始。新たに確認された被災箇所の応急復旧を実施中。
- ・ 今後定植に伴い用水需要の増加が見込まれるイチゴ・トマト等への用水供給に全力で取り組む。

(8/21時点)	延べ派遣者数 (人・日)	機 材
地方農政局	2,025	
関東	59	ポンプ 2台等
北陸	235	ポンプ 8台、ポンプ車 1台
東海	194	ポンプ 8台、ポンプ車 1台
近畿	322	ポンプ 10台、ポンプ車 1台等
中国四国	335	ポンプ 10台、ポンプ車 1台等
九州	880	ポンプ 56台、ポンプ車 2台等
農林水産本省	130	



ほ場への給水



用水路への水の補給



通水状況確認



農家との意見交換



トマト農家と意見交換する
津島本部長（8月19日）

農林水産省からの報告（8月21日時点）

○防災重点農業用ため池の安全・安心の確保

- 発災直後からMAFF-SATを派遣し、防災重点農業用ため池の被害の把握とともに、被災が確認されたため池の応急対応等の支援を実施中。
（熊本県の防災重点農業用ため池830か所のうち点検対象446か所。異常ありは56か所）
- 20日、MAFF-SAT16名を派遣し、県と協力してブルーシート養生を実施したことで、応急措置が必要な箇所について全て対応済。

防災重点農業用ため池の応急対応状況（8月20日時点）

	住民への周知	低水管理	亀裂のブルーシート養生	水位計設置
実施済	56か所	11か所	16か所	7か所
未了	0か所	0か所	0か所	0か所
対策不要	－	45か所	40か所	49か所

○農地と暮らしをまもる

(1)排水機場

- 県の排水機場PTにMAFF-SATを派遣し、機能復旧と代替手段による排水機能補完の検討を支援。
- 県の要請に基づき、被災した排水機場に農林水産省の排水ポンプ車を配備。

(2)海岸保全施設

- 12海岸で堤防天端の沈下、クラックなどの被害が発生。
- 国が事業実施中の農地海岸堤防では、堤防の早期復旧に向け、波返工（なみかえしこう）下部の空洞箇所へのグラウト注入、堤防道路部へのブルーシート養生、土嚢養生等の応急対策を実施し、21日に完了予定。
- 県の海岸保全PTにMAFF-SATを派遣し、高潮による浸水被害に備え、機能復旧や応急対策に関する検討を支援。



排水ポンプ車配備



ブルーシート養生



ポンプを活用した排水機能の補完



波返工空洞箇所へのグラウト注入

被災地におけるトマトといちごの営農再開に向けて

- 全国1位のトマト産地、全国3位のいちご産地の中心である八代市、氷川町が地震により被災。
- 生産現場では、苗の必要量は確保済み。現在、トマトは定植作業中、いちごは9月中旬定植開始予定。用意した苗は全て植え、計画通りの生産を実現したい。
- 計画通りの収穫と出荷に向けて、生育期の水の確保、集出荷体制の整備が課題。

支援策のポイント 生育期の水の確保

(用水復旧、給水車の配置、貯水タンクの利用など)

支援策のポイント

集出荷場の復旧
代替施設の確保

トマト 🍅

苗の定植割合 4割
JAやつしろより聞取(8/19)

定植



収穫開始

(11月から本格出荷)

8月

9月

10月

11月

12月



R9年1月……

いちご 🍓

定植



収穫開始 (12月から本格出荷)

熊本ブランドの維持・発展

(いちご)和鹿島いちご部会に参加し農業者の水の確保状況の把握。(8/18)

非JAの農業者に対し意向確認実施(8/21)

参加者: 熊本県、氷川町、JA やつしろ、九州農政局



アンケート票

令和9年度熊本県産 へちま産地アンケート

調査対象: 熊本県産 へちま産地

調査期間: 8/18(水)～8/21(土)

調査場所: 熊本県 氷川町 八代市

調査内容: へちまの生産状況、水確保状況、出荷状況、販売先、その他

調査結果: へちまの生産状況、水確保状況、出荷状況、販売先、その他

(トマト)試験通水により水が来なかった地区に通水(昭和地区)



試験通水の実施
(不知火幹線水路)



給水車(8/2配置)の一部を8/20から共用井戸付近に配置



令和 8 年熊本地震への経済産業省の対応（8月21日（金）時点）

※下線部は前回からの更新箇所

1. エネルギー・インフラの状況

	状況
電力	熊本県で約4.9万戸の停電が発生。高圧線に加え低圧線も停電は復旧済み。 引込線を原因とする停電は、連絡いただき次第、原則当日の解消を目指す。九州電力送配電から、相談窓口について、避難所での周知を実施するとともに、順次、状況を確認し各戸に掲示・投函。
発電所	火力発電所※1・原子力発電所※2ともに、運転継続中。 ※1：九電・電源開発保有の発電所、※2：川内①②号機・玄海④号機
都市ガス・LPガス	八代市における約8,900戸供給停止のうち、家屋倒壊（65戸）を除き全戸で供給再開済。 八代市のLPガス充てん所の一部設備に損傷あり。LPガス供給には支障なし。
SS （ガソリンスタンド）	営業中68（被害の大きかった八代市、宇城市、氷川町のガソリンスタンド73か所の9割超。）残り5か所の復旧見込み：設備復旧が必要となり、数か月以上かかる見通し 上記の他、震度6弱以上を記録した13市町村（熊本市、合志市、上天草市、宇土市等 計250か所）については、営業中249、営業不可1

2. 物資支援

- 被害の大きかった八代市・宇城市・宇土市・氷川町でコンビニ全店（100店舗/100店舗）が営業再開。県内全体787店舗中、休業店舗数は、29日（水）：211店舗 ⇒現在2店舗。
- 業務用エアコンは15か所要請、うち14か所で設置済、さらに1か所で設置中。循環型シャワー（WOTA）は145台設置済。仮設・簡易トイレや段ボールベッド、熱中症対策用品、衛生用品、ブルーシート等も順次熊本の物流拠点に到着。大手物流会社による支援は、より細かな配送ニーズに対応するため、各市町の個別手配に移行。

3. 中小企業・小規模事業者への支援

- 災害救助法の適用に伴い資金繰り支援（※）、相談窓口（20か所）設置済。
※①災害復旧貸付等の実施、②セーフティネット保証4号（100%保証）の適用、③既往債務の返済条件緩和等の対応、④小規模企業共済災害貸付の適用
- 中小企業分野の局地激甚災害の指定について局激見込み公表（宇城市・氷川町・嘉島町（8/18公表）、八代市（8/12公表）、御船町（8/7公表））。8/7（金）に1,800業界団体及び国・自治体の長に中小受託事業者との取引への配慮要請済。
- 局激指定見込みを踏まえ、「自治体連携型補助金」を通じて熊本県が実施する県内全域の中小・小規模事業者向けの復旧支援事業に、なりわい再建支援補助金と同等の高い補助率の支援が可能。補助対象事業者の範囲や多重被災事業者への支援については関係省庁と検討。
- 局激指定地域では「災害復旧貸付」の金利をさらに引き下げ（1,000万円まで▲0.9%）、「セーフティネット保証4号」とはさらに別枠の100%保証も実施。

4. サプライチェーンの状況

- 一部の半導体関連工場では、設備等の確認・点検のため操業を停止していたが、TSMC熊本や三菱電機、ルネサスなど、稼働を再開している工場も増加。
- 一部の自動車部品工場において、設備等に被害が発生し操業を停止していたが、アイシン九州は8/2から一部部品の生産を再開。
一部の完成車メーカー（OEM）では、部品メーカーの被害状況の確認等を優先し、生産を一部停止していたが、順次生産を再開。

※ 21日（金）時点で、経産省本省6名・経産局10名・産業保安監督部4名、合計20名を熊本県庁・市町等の現場へ派遣。

■インフラ復旧 OTEC-FORCEの活動

- ・全国から国土交通省TEC-FORCEが集結し、被災状況調査や、給水・トイレ及び電源支援等の災害対策機械による応急対策の技術支援を実施。
- ・令和8年8月21日は、八代市、氷川町など3市3町において約100人が給水支援などの活動を実施中。
- ・令和8年7月28日の被災直後から、これまで6市4町を中心に、のべ約4,300人・日で活動を展開(リエゾン等含む)

被災状況調査

▼ヘリによる上空からの被災状況調査及び映像の提供



宇城市



宇城市

▼デジタル機器を用いた被災状況調査



氷川町



八代港

▼TEC-FORCE出発式(8/18)



宇土市

- ・被災状況調査(河川)
- ・給水支援

宇城市

- ・被災状況調査(河川・道路)
- ・給水支援
- ・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援(三角港)

▼調査報告書の手交、説明(8/20)



氷川町

- ・被災状況調査(河川)
- ・給水支援、電源支援

天草市

【天草市】

- ・被災状況調査(港湾)

【熊本県】

- ・現地災害対策本部(連絡調整等)
- ・被災地上空調査
- ・機械操作、映像撮影、情報通信
- ・JETT等の派遣 等

【熊本市】

- ・被災状況調査(熊本城公園)
- ・給水支援

【嘉島町】

- ・照明車支援
- ・給水支援

【甲佐町】

- ・被災状況調査(道路、のり面)
- ・応急対策班

【美里町】

- ・電源支援・被災状況調査

【八代市】

- ・被災状況調査(港湾・河川・道路)
- ・給水支援
- ・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援(八代港)

【上天草市】

- ・被災状況調査(港湾)

被災者支援

▼照明車による人命救助活動の支援



黒島町



宇城市

▼防災用コンテナ型トイレの派遣



宇城市

▼ボランティアセンターへ対策本部車を提供



氷川町

▼電力復旧までの電源支援



氷川町

令和8年8月21日現在:のべ約4,300人・日

○インフラ施設の復旧(河川、道路、港湾、上下水道など)

(1)道路

■高速道路

(E3九州道)

- ・被災による通行止め:なし ※宮原SA～八代IC間にある川田橋前後で、対面通行あり(延長1.5km)

(E3A南九州道) ※NEXCO管理:八代JCT～日奈久IC、国管理:日奈久IC～田浦IC

- ・7月28日より通行止めとなっている八代JCT～田浦ICのうち、八代南IC～田浦ICについては8月18日より一般車両通行可。
- ・八代JCT～八代南ICでは、引き続き復旧作業に伴う通行止めを継続。

■直轄国道(直轄高速除く)

- ・被災による通行止め:なし

(2)河川

- ・国管理河川では点検が完了し、3水系 8河川※91箇所です堤防天端のクラックなどの被害を確認。
- ・堤防の沈下や亀裂、はらみ出し等が生じた球磨川の堤防3箇所です緊急災害復旧工事に着手。比較的損傷が軽微な88箇所(白川3箇所、緑川44箇所、球磨川41箇所)も順次応急復旧工事に着手。
- ・8月7日を以て、対象全91箇所について、応急復旧完了。

(3)港湾

- ・八代港では、地震動による岸壁の変位及び液状化による噴砂や、沈下等が発生。
- ・耐震強化岸壁については7月29日に応急復旧を行い、コンテナ岸壁は7月30日に港湾空港技術研究所等の調査官の助言を得て利用可能と判断。その後も現地調査結果を踏まえた利用可否判断を順次行い、現在、八代港外港地区は5バース、内港地区は4バースの利用が可能。
- ・各利用可能な岸壁に、海上保安庁や海上自衛隊、港湾局等の船舶が支援物資の輸送、給水、入浴等の支援を実施。8月12日からは、外港地区の穀物バースにおいて、穀物運搬船の利用を再開。
- ・八代港の港湾機能の早期復旧に向けて、8月12日に有識者や関係団体等で構成する「八代港被災施設復旧技術検討委員会」を設置。
- ・研究所による技術的検討及び応急復旧により、貨物船が利用可能な岸壁は2バース増え、3バースに回復。

○インフラ施設の復旧(河川、道路、港湾、上下水道など)

(4) 上下水道

- ・8月末の断水解消に向け、上下水道の応急復旧に全力で取り組む。
- ・毎日10時時点で応急復旧状況を更新（国交省HP）

※避難所、医療機関、福祉施設等の重要施設につながる管路については、上下水道一体で優先的に復旧を図る

水道

- ・発災後、最大約108,000戸が断水する状況。
- ・国土交通省及び日本水道協会より水道技術者を全国から派遣し、点検・応急復旧作業を実施中。
- 8/21 7:30時点、断水戸数は約4,300戸（八代市、宇城市、氷川町）
- ・今後の復旧の見込みは以下の通り

市町村	地区	断水解消見込み※
八代市	旧八代市地区(龍峰校区の一部、新港町1～4丁目除く)	解消
	旧八代市地区(龍峰校区の一部、新港町1～4丁目)	8月末
	鏡町・千丁町	8月末
宇城市	小川地区	8月末
	豊野地区	解消
氷川町	梶地区、島地地区、他9地区	解消
	その他の地区	8月末

※断水解消とは、修繕等により水道本管までの通水可能になることをいう

下水道

- ・応急復旧支援が必要な4自治体(八代市、宇土市、宇城市、氷川町)に対して、国土交通省、全国の自治体※、日本下水道事業団、(公社)日本下水道管路管理業協会等より下水道技術者を派遣し、点検・応急復旧作業を実施してきたところ。
- ・応急復旧調査は約282kmの管路を対象に実施し、さらに、応急復旧が必要な8箇所について、8/13に全ての作業を完了。

※日本下水道協会の全国の相互支援ルールに基づき派遣

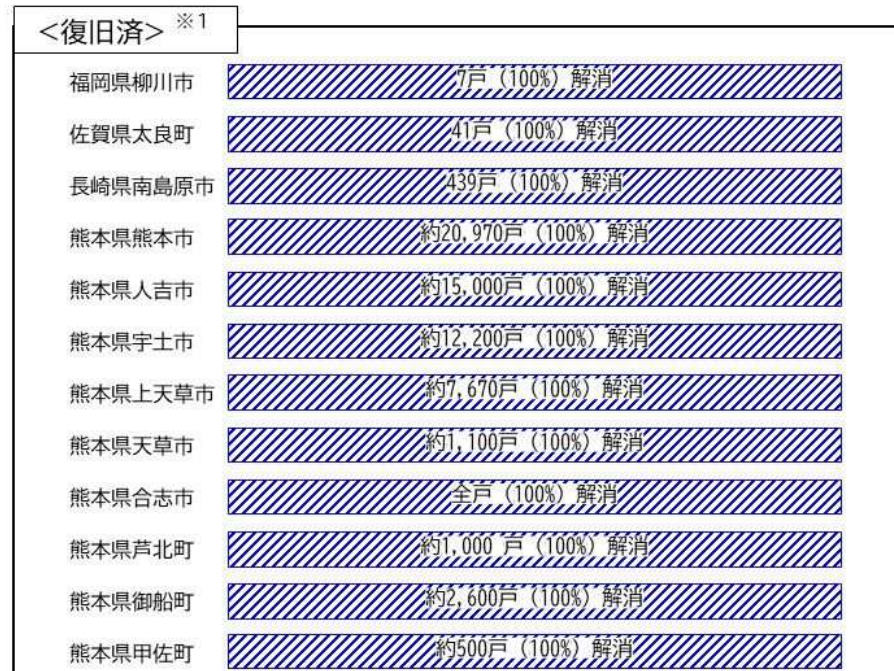
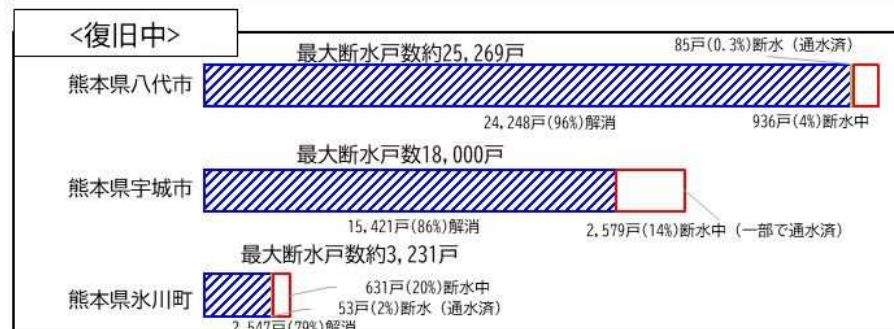
市町村	地区	作業完了
宇城市	旧小川町	完了
氷川町	旧竜北町	完了
	旧宮原町	完了

※八代市、宇城市、氷川町の断水地区のうち約140戸は通水済みであるが、漏水調査に必要な水量・水圧の確保のため、使用自粛を要請中

水道施設の復旧状況について

国土交通省
令和8年8月21日
7:30時点

熊本県の3自治体において約4,300戸が断水中、そのうち約140戸は通水済み（漏水調査に必要な水量・水圧確保のため使用自粛を要請中）



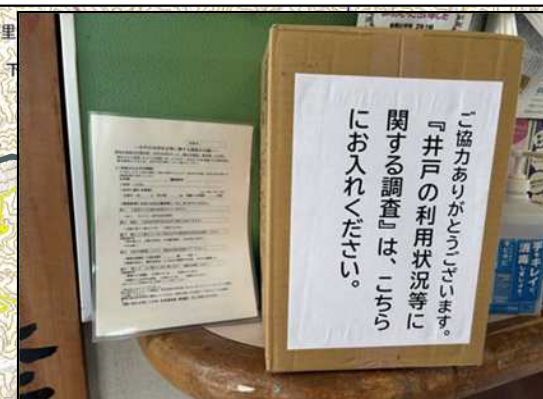
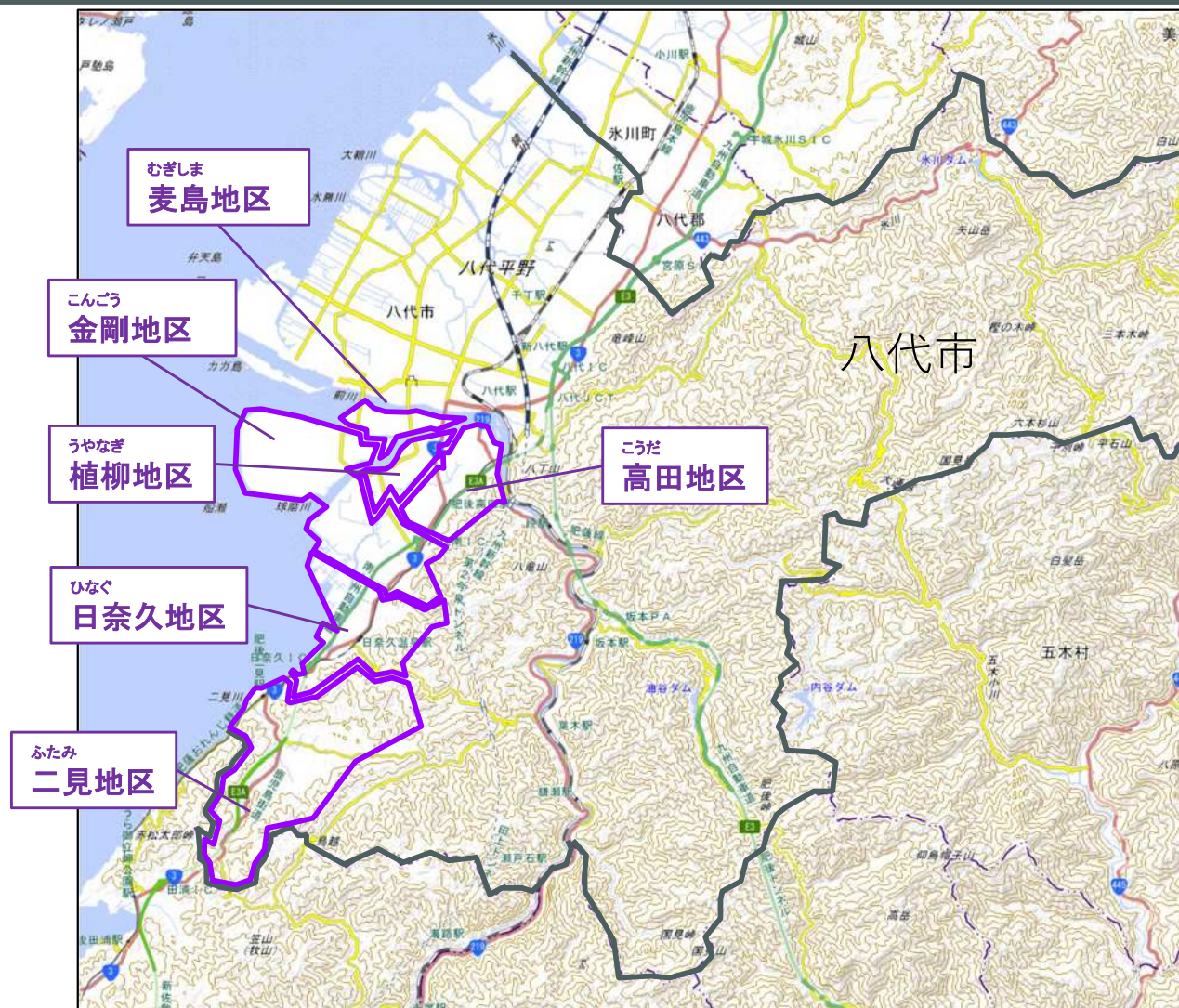
<凡例> 断水解消※2 断水(通水済※3) 断水中

※1 復旧済の棒グラフは、最大断水戸数に対する割合を表示

※2 修繕等により水道本管まで通水可能になること

※3 通水済だが、漏水調査に必要な水量・水圧確保のため、使用自粛を要請中

- 8月15日より6つの地域約1万4千戸の家屋を対象に、町内会長を通じ、洗浄作業への意向調査等のためのアンケート配布を開始。
- 8月19日から(一社)全国さく井協会の協力を得て、被災した井戸の不具合の原因調査(洗浄等)を開始。
- 8月20日から八代市環境センター内に井戸水の断水、濁りによって飲用水・生活用水が確保できない方に対し、専用窓口を開設。



コミュニティセンターでのアンケート設置回収状況

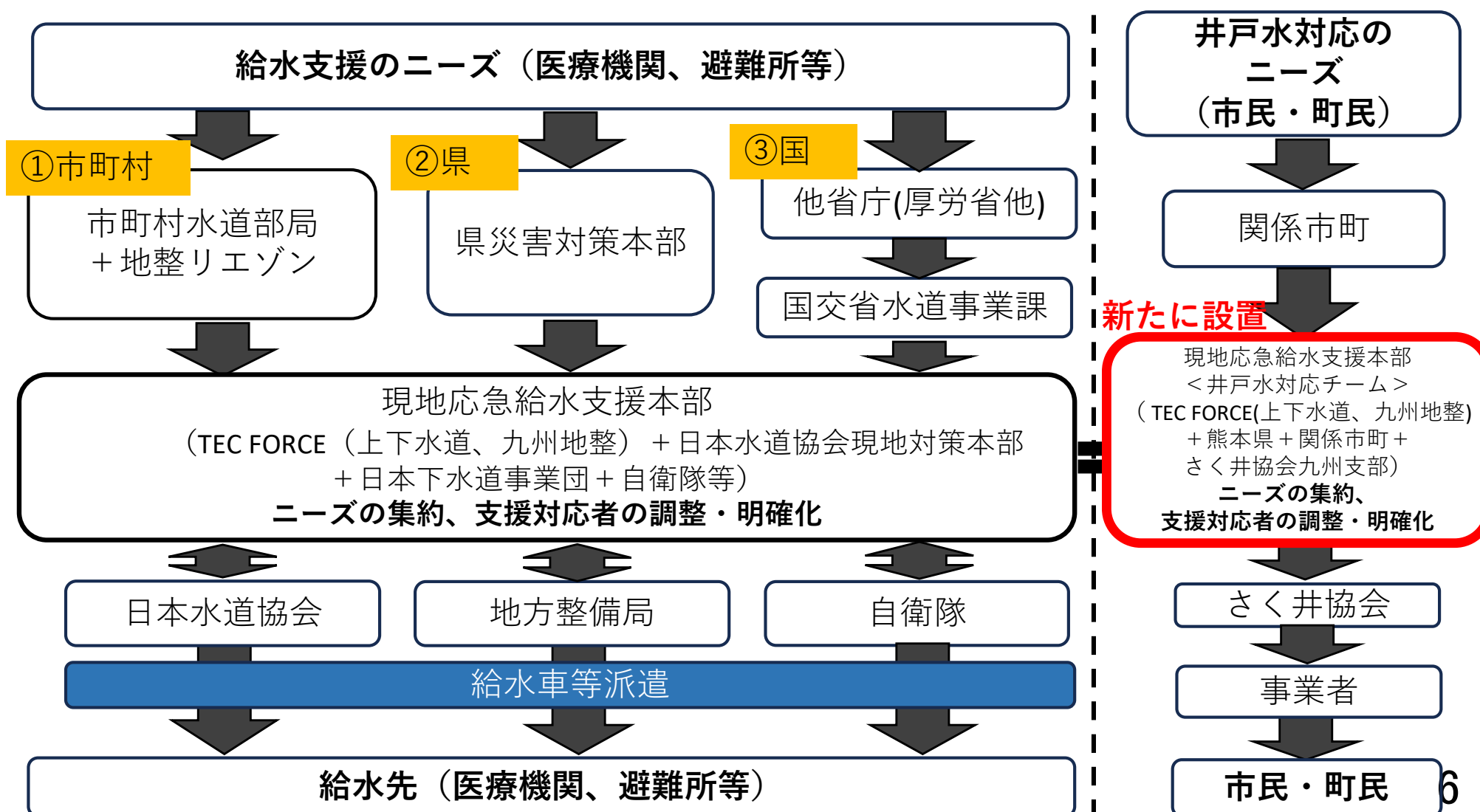
支障の状況として、「濁り、砂が混じる」「水量が減った」「水が全く出ない」等の声が寄せられている。



洗浄の様子

井戸水対応チームの設置について

- 水道が通っておらず井戸水で生活されていて、井戸が被災した方々を支援するため、現地応急給水支援本部の下に、8月11日「井戸水対応チーム」を新たに設置し、井戸水洗浄等のための業者派遣を調整。



○道路交通マネジメント

- ・ 災害発生時における道路交通の確保と円滑な交通マネジメントの実現のため、関係機関が連携し九州地方整備局が中心となり「熊本県災害時交通マネジメント検討会(令和8年熊本地震)」の第5回会合を8月14日に開催し、九州道の一般車両開放後や、その後の段階的な通行止め解除に伴う交通状況の変化を踏まえた柔軟な迂回案内などを関係者間で連携しながら検討することを確認。
- ・ 南九州道 八代JCT～八代南IC間の通行止めが継続されることから、国道3号や県道42号等の迂回路を案内。
※ 現地の誘導看板等に従って通行をお願いします。
- ・ また、八代JCT～八代南IC間の通行止めに伴い、熊本方面と水俣方面を通行される際に、一旦高速道路を降り、再度乗り継いだ場合、通行料金の調整を実施。
- ・ 8月8日朝、国道3号(氷川町大野～八代市岡町中)で8月4日から実施していた『ピンポイント路面改善作戦』が完了。
- ・ また、8月15日朝には、追加12箇所(宇城市松橋町久具～八代市高下西町)の『ピンポイント路面改善作戦《第2弾》』も完了し、国道3号の走行性が改善。
- ・ 8月19日から、新学期に向けて国道3号歩道部(通学路)の集中修繕に着手。
- ・ 道路の復旧見通しに関する現地PR(道路復旧見える化プロジェクト)看板を21箇所67枚設置。
- ・ 渋滞対策として、引き続き、道路規制情報、渋滞情報等について、道路情報板、各機関HP、SNS等により提供。
特に、八代市周辺の交通状況については以下のHPで毎日更新。

(国土交通省道路局HP) https://www.mlit.go.jp/road/road_fr4_000201.html

■被災者支援

○応急給水

- ・「現地応急給水支援本部」において、国土交通省の現地派遣職員が日本水道協会と連携し、自衛隊等による給水活動とも調整しながら、避難所・医療機関・福祉施設などの重要施設における給水ニーズを把握し、優先度を踏まえ応急給水を実施
- ・給水車 合計129台(国 18台、日本水道協会 103台、自衛隊 8台)
- ・水資源機構が保有する可搬式浄水装置を設置し、氷川町において8/9より入浴施設への給水に活用



- ・水道が通っておらず井戸水で生活されていて、井戸が被災した方々を支援するため、現地応急給水支援本部の下に、11日「井戸水対応チーム」を新たに設置し、井戸水洗浄等のための業者派遣やニーズ調査の調整

■被災者支援

○船舶等による直接的な給水スポットとしての活動

- ・地方整備局・海上保安庁の船舶による給水・入浴支援の場所・時間等が一目で分かるよう、SNSを活用した情報発信を実施中(毎日更新)。
- ・八代港において、昨日8/20(木)までに約651トン、本日8/21(金)に約0.50トン(12:00時点)の給水支援を実施。
- ・三角港において、昨日8/20(木)までに約373トン、本日8/21(金)に約0.07トン(12:00時点)の給水支援を実施。

○入浴支援

- ・八代港において、8/1(土)から計2,850名への入浴支援を実施。
- ・三角港において、7/30(木)から計741名への入浴支援を実施。



給水支援の様子

(調査観測兼清掃船「海輝」・「海煌」、八代港)



入浴支援の様子

(巡視船「いわみ」、三角港)



■被災者支援

○緊急物資輸送

2次輸送(県→市町村の拠点輸送)は県トラック協会が輸送を手配中。3次輸送(市町村→避難所等)については各自治体が運送事業者のサポートも得ながら対応中。

○緊急物資輸送(雨漏り対策支援)

(一社)日本建設業連合会等を通じて、土嚢袋約20万袋を配布済(宇土市・美里町・菊陽町・山都町・八代市・氷川町・上天草市)。

あわせて、ブルーシートについては九州地方整備局と日本建設業連合会九州支社との災害協定に基づき、県・各市町へ累計約19,000枚を配布。



宇城市ブルーシート配送完了(R8.8.5)



宇土市ブルーシート配布状況

○住宅

- ・(独)都市再生機構において、被災者向けの住宅提供として、UR賃貸住宅を全国で140戸確保。8月7日より受付開始。

- ・被災者の住まいの確保に関する情報をとりまとめ、8月7日より国土交通省HPに掲載

https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk3_000188.html

(公営住宅等の提供、賃貸型応急住宅の提供、(独)住宅金融支援機構による災害復興住宅融資等、被災住宅の補修等に関する相談窓口、住宅リフォーム事業者等に関する情報)

令和 8 年熊本地震を受けた包括的災害廃棄物対策プログラム (令和 8 年 8 月 20 日)



I. 熊本県内災害廃棄物対策の基本的な考え方

- 被災者の日々の生活環境確保と生活再建、被災地の復旧・復興に向けて、災害廃棄物の撤去・処理について計画的かつ効率的・効果的な対応が必要。
- 熊本県庁、関係省庁、関係団体と連携・協力し、被災市町村を包括的に支援。

II. 災害廃棄物対策の各ステージにおける支援内容

1. し尿・生活ごみ

○処理施設への財政支援

- ・廃棄物処理施設の復旧に対する費用を支援

○し尿・生活ごみの着実な処理

- ・広域処理に係るかかりまし経費を支援

○避難所における仮設トイレ等の清掃業務

- ・仮設トイレの生活環境改善のため、し尿回収業者の協力を得た清掃管理の支援スキームを内閣府と連携して構築



し尿回収、清掃管理の状況

2. 災害廃棄物の生活圏からの撤去

○災害廃棄物処理に対する財政支援の拡充

- ・全壊家屋に加え、特例的に半壊家屋も解体支援

○片付けごみへの支援

- ・被災市町村による片付けごみの回収にかかる費用を支援
- ・回収に必要なごみ収集車の応援派遣を調整

○仮置場の設置・運営への支援

- ・仮置場の設置・運営にかかる費用を支援
- ・環境省職員等が仮置場を巡回し、課題を早期に発見し助言

○全壊・半壊家屋の公費解体への支援

- ・九州環境局を中心に「公費解体支援チーム」を設置し、緊急公費解体や通常の公費解体の準備を支援
- ・災害廃棄物補助金等説明会で意見交換し、被災市町村向けの常時相談窓口を開設

3. 災害廃棄物処理

○計画的な災害廃棄物処理

- ・災害廃棄物の発生量推計やスケジュール等を定める処理基本方針、具体的な処理方法や処理フロー等を定める処理実行計画の策定を支援

○災害廃棄物支援調整本部での支援調整

- ・環境省、熊本県、熊本市が共同で設置した調整本部において、被災自治体のニーズに沿った支援方法やリソース配分を調整し、人的支援等を順次実施
→特に今後重要となる公費解体の実施に向けて、
- ・災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）の活用
- ・大規模災害廃棄物対策九州ブロック協議会を通じた廃棄物行政職員派遣等による人的支援を拡充

※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

令和8年熊本地震に係る災害派遣について（令和8年8月20日活動実績）

令和8年8月21日
防衛省

概要

- 令和8年7月28日（火）1627頃、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生。
- 同日（28日）1730、熊本県知事から陸自第8師団長（北熊本・熊本）に対し、情報収集、人命救助、物資輸送、生活支援等に係る災害派遣要請があり、同時刻受理。
- 昨日（20日）現在、陸自第8師団を中心とする自衛隊員約5,100名態勢で活動。

昨日 （20日） の 自衛隊の 主な活動

【主な活動部隊等】

陸自第8後方支援連隊（北熊本・熊本）、陸自第8特殊武器防護隊（北熊本・熊本）、陸自西部方面後方支援隊（目達原・佐賀）、海自艦艇2隻（すおう、うらが）、空自第5航空団（新田原・宮崎）、空自第8航空団（築城・福岡）等

【輸送活動】

- 陸自西部方面後方支援隊により、米軍からの救援物資をグランメッセ熊本から海自多用途支援艦「すおう」に輸送。

【給水支援活動（4市4箇所）】

- 給水車7両
 - ・ 八代市については、人工透析に必要な水が不足している病院への給水支援
 - ・ 熊本市、宇城市、宇土市については、入浴支援のための給水

【入浴支援（5市町7箇所）】

＜熊本市（1箇所）＞

- 陸自第8後方支援連隊
 - ・ 火の君文化センターにて陸自がシャワーによる入浴支援を、午後6時から午後10時まで実施。

＜宇城市（2箇所）＞

- 海自多用途支援艦「すおう」
 - ・ 三角港に停泊中の「すおう」内にて、シャワーと浴槽による入浴支援、洗濯支援、健康相談、充電支援を、午後3時から午後9時30分まで実施。

○ 陸自第8後方支援連隊

- ・ 小川防災拠点センターにて、シャワーによる入浴支援を、午後5時から午後11時まで実施。

＜八代市（2箇所 ※「はくおうⅡ」含む）＞

- 海自掃海母艦「うらが」、海自舞鶴入浴支援隊
 - ・ 八代港岸壁及び「うらが」内にて、シャワーと浴槽による入浴支援を、午後3時から午後9時30分まで実施。「うらが」内で洗濯支援、健康相談、充電支援を実施。

＜氷川町（1箇所）＞

- 空自第5航空団、空自第8航空団等
 - ・ 氷川中学校にて、水再生型シャワーによる入浴支援を、午後2時から午後10時まで実施。

＜宇土市（1箇所）＞

- 陸自第8後方支援連隊
 - ・ 宇土アリーナにて、シャワーによる入浴支援を、午後5時から午後10時まで実施。

【PFI船舶「はくおうⅡ」による生活支援】

- PFI船舶「はくおうⅡ」、PFI船舶支援隊（県庁で連絡員として勤務）
 - ・ 八代港に停泊している「はくおうⅡ」内で、入浴支援等の提供を午前11時から午後3時、午後4時から午後8時まで実施。

【連絡員の派遣状況】

- 熊本県庁等に、最大3箇所・延べ約14名派遣。

活動の様子



【宇城市】入浴支援準備をする陸自隊員 ※8/8撮影



【氷川町】空自による入浴支援の様子 ※8/17撮影



【八代市】「うらが」での洗濯支援の様子 ※8/19撮影



【八代市】海自による入浴支援準備の様子 ※8/19撮影



【八代市】入浴支援準備をする海自隊員 ※8/18撮影



【宇城市】陸自入浴支援会場における利用者の方との交流の様子 ※8/5撮影